

## 協力会ニュース創刊のことば

主の御名を賛美いたします。

日本文化に根ざした宣教を考え、この愛する国に福音を宣べ伝えるため、高橋敏夫牧師が神様から志をいただいて立ち上がり、9月23日に主幹伝道者として派遣式を行うことができました。春日部福音自由教会の姉妹はもとより、近隣諸教会、超教派の働きを担っている方々からも励ましと期待のことばをいただき、心より感謝をいたします。

このたび、当協力会の働きの報告を、高橋師の奉仕を中心に皆様にお届けいたします。生まれたばかりの協力会であり、組織も不十分ではありますが、皆様からのご支援とお祈りをいただき、主の福音のために労したいと願っております。

主イエスキリストの御降誕の祝福が豊かにありますようお祈りし、創刊号のことばとさせていただきます。

2012年12月16日  
日本文化宣教協力会 会長 山田 豊

## 2013年の高橋敏夫師に関わる奉仕

- |         |            |     |           |
|---------|------------|-----|-----------|
| 1月1日～3日 | 丘の上新年茶会    |     |           |
| 1月30日   | 市民文化講座第4回  | ゲスト | 島田利雄（桐箆箆） |
| 3月27日   | 市民文化講座第5回  | ゲスト | 着物ひしや     |
| 月日未定    | 鳥取応援伝道を計画中 |     |           |

日本文化宣教協力会ニュースを、今後はEメールにてお届けしたいと考えています。メールでの配信を希望される方は、協力会事務局までお知らせください。

### サポートのお願い

当協力会は、本会の趣旨に賛同する方々の祈りと献金によって支えられ、運営されております。ご支援いただけます方は、同封の振込用紙、または専用の封筒をご利用くださり、お献げいただきたいと存じます。

日本文化宣教協力会事務局  
〒344-0067

埼玉県春日部市中央1-51-7

春日部福音自由教会内

Tel 048-735-4765

Fax 048-735-4726

Eメール y-gospel@tcat.ne.jp

郵便振替

ゆうちょ銀行春日部店

口座番号 00140-9-394018

加入者名 日本文化宣教協力会

## 日本文化宣教協力会 会計報告

2012年11月17日 現在

収入の部		支出の部	
前年度支援献金端数残額	6,970 円	事務費	8,165 円
沖縄支援献金残額	56,900 円	通信費	6,360 円
献 金	621,400 円	派遣式費用	9,762 円
受取奉仕謝礼	40,000 円	研修費	140,000 円
派遣式祝金	20,000 円	交通費	68,060 円
受取利息	8 円	宿泊費	20,050 円
		繰越金	492,881 円
合 計	745,278 円	合 計	745,278 円

備 考：  
①研修費： @20,000円/月 4月～10月（7ヶ月分）  
②交通費には京都奉仕の他に福岡奉仕の一部が含まれています。

### 編集後記

京都と福岡での伝道旅行のために中心になって奉仕して下さった水野先生と宮内先生に感謝をいたします。また、高橋師の本を通して信仰に導かれた寺田信子姉の証しは、まさに主の御名をあがめるものでした。さあ、降誕祭を終えると、新しい年。日本人キリスト者として、どのように新年の祝福を表していけばいいのでしょうか。これも私たちの課題と思います。 Y

# 日本文化宣教協力会 ニュース

発行：日本文化宣教協力会事務局  
2012年12月16日発行 第1号

Vol. 1

## 巻 頭 言



主幹伝道者 高橋敏夫  
(春日部福音自由教会名誉牧師)

春日部市民文化講座が、昨年できあがったばかりの通称「ふれあいキューブ」で行われている。お茶屋さんのおづづみ園さんを始め、漆芸の人間国宝増村紀一郎先生、三回目は和菓子の青柳の小川さんにそれぞれの専門の立場から興味ある講演をしていただき、私が千利休の侘び茶について約1時間語っている。

講座は4回、5回と続けられてゆく予定である。

ボーイスカウト春日部10団の主催として、聖書の言葉がどのように日本文化に影響を与えてきたかを、特に茶の湯とのかかわりで講演させていただけることを感謝している。

そもそも、福音は1549年フランシスコ・ザビエルによって日本に初めて伝えられた。フランシスコ・ザビエルは日本の優れた文化と教養および品性の高さが他の民族に比べて尊敬に値すると、日本の印象を報告している。

従って当時ヨーロッパは科学が進歩し、遠く日本まで貿易にやってくることでできるほどの造船技術、そして戦争のための鉄砲、大砲などを備えている先進国であった。にもかかわらず、ザビエルは日本人を蔑視するどころか、日本人に好意を持たれるような伝道をするようにイエズス会に提言した。

イエズス会の巡察師バリニャーノは、当時日本の支配階級が競うように学んでいた茶の湯の文化を、日本人に好意を持たれて宣教が進むようにと、教会には茶室を設け、必要な道具をそろえ、宣教師たちに自ら茶の湯を学ぶように通達している。従って秀吉によるバテレン追放令が出された後も当時の人口比の1パーセントを超えるほどのキリスト教徒が存在するようになり、それは日本文化形成にも大きな影響力を与えている。

このような歴史的、文化的視点で伝道するということが、67年前米国から洪水のように押し寄せてきた米国宣教師たちは意に介せず、米国の宗教的文化としてのキリスト教を直接的に日本人に伝えている。その結果として、私はキリスト者として今日に至っているのであるが、ここに大きな葛藤がこの教会の牧師になってからも続いている。すなわち、熱心に同胞に伝道すればするほど、教会から人々の心が離れていき、10代で信仰を持つようになって40代、50代になると日本人回帰し、葬儀は仏式で行われるようになる。

戦後の日本の教会は、日本人の心の表面に関わっても、心の中心にまで迫る宣教の方法を知らなかったのではないかという今日までの宣教の反省と、これからの宣教のビジョンをどのようにすべきかを祈りとする中で、日本文化宣教協力会が遅ればせながら産声を上げた。何百人、何千人集まっているという教会であっても、それはほんのわずかな数に過ぎない。あがない主、イエス・キリストの愛が届くような、伝道の仕方を追求し、実践して行きたいと考える。